

平成 21 年度 病虫害発生予察注意報 (第 2 号)

平成 22 年 3 月 1 日
静岡県病虫害防除所長

病虫害名 :カンザワハダニ
対象作物 :チャ

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域 : 県内全域 (特に牧之原地域と川根地域)
- (2) 被害が予想される時期 : 4 月上旬 ~ 5 月中旬
- (3) 発生程度 : 多
- (4) 防除時期 : 3 月上中旬

2 注意報発表の根拠

- (1) 2 月中旬に行なった巡回調査における県下各地域の発生状況は第 1 表のとおりで、発生面積率、雌成虫平均寄生葉率ともに県下全域で平年を大きく上回っており、ここ 10 年間で最も発生が多い状況にある。特に牧之原地域と川根地域では、雌成虫の平均寄生葉率が摘採面で 5% 以上、すそ部で 15% 以上と他の地域に比べ高い。

第 1 表 2 月中旬における県下各地域のカンザワハダニの発生状況

地域名	発生面積率%(内は平年比)				雌成虫平均寄生葉率%(内は平年比)			
	摘採面		すそ部		摘採面		すそ部	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
富士山麓 (沼津市・富士市)	70(3.2)	22	60(1.2)	49	3.5(7.3)	0.5	4.1(1.5)	2.8
静岡市北部 (静岡市葵区)	60(2.0)	30	70(1.9)	38	3.3(3.7)	0.9	5.9(3.5)	1.7
牧之原市 (菊川市・島田市・牧之原市・御前崎市)	70(2.5)	28	100(1.7)	58	5.8(5.4)	1.1	20.0(4.9)	4.1
小笠・磐田原 (磐田市・掛川市・袋井市)	60(2.5)	24	70(1.3)	54	1.9(4.0)	0.5	7.1(2.2)	3.3
川根 (旧川根町・川根本町)	90(3.8)	24	100(2.7)	37	7.4(14.8)	0.5	15.4(9.2)	1.7
県全体	70(2.7)	26	80(1.7)	47	4.4(6.4)	0.7	10.5(3.9)	2.7

注) 摘採面、すそ部ともに 1 圃場あたり 10ヶ所 10葉について寄生葉数を調査。調査圃場は各地域 10圃場

- (2) 2 月中旬の巡回調査ほ場における休眠が明けた雌成虫の割合は、平均 90.8% (平年 84.5%、前年 84.5%) で、平年および前年に比べやや高く、地域差はほとんどない。休眠が明けた雌成虫は既に産卵を開始しており、また多くのほ場で幼若虫の寄生が確認された。このため新成虫の発生時期はやや早く、被害の発生時期は平年よりもやや早いと予想される。
- (3) 3 月の気温が高く、少雨で推移した場合、さらに密度が高まり、4 月以降の一番茶芽への寄生が進むと予想され、一番茶での被害が発生する恐れがある。
- (4) 4 月に凍霜害が発生すると、被害が助長される可能性がある。

3 防除方法

- (1) 一番茶芽萌芽前 (3 月) の防除を徹底する。防除薬剤については第 2 表を参考にするとともに、農薬の使用に当っては必ずラベルを確認し使用基準を遵守する。特に、昨秋防除したほ場では、薬剤の使用回数に十分注意する。
- (2) 防除は発生の有無を確認し、摘採面での寄生葉率が 10% (100葉観察調査) を超え

る前に行く。なお、多発ほ場では、1回の防除では不十分な場合があるので、体系的な防除を行う。

(2) 不明な点は、病虫害防除所、茶業研究センター、農林事務所、農協に問い合わせる。

第2表 チャにおけるカンザワハダニの主な防除薬剤

商品名	毒性	魚毒性	希釈倍数	使用時期	使用回数
パロックフロアブル	普	A	1000~ 3000倍	摘採 14日前まで	1回
カーラフロアブル	普	A	2000~ 3000倍	摘採 21日前まで	1回
スターマイトフロアブル	普	A	2000倍	摘採 7日前まで	1回
ダニサラバフロアブル	普	A	1000~ 2000倍	摘採 7日前まで	2回以内
ダニゲッターフロアブル	普	B	2000倍	摘採 7日前まで	1回
カネマイトフロアブル	普	B	1000倍	摘採 7日前まで	1回
ミルベノック乳剤	普	C	1000倍	摘採 14日前まで	1回
マイトコーネフロアブル	普	B	1000倍	摘採 14日前まで (但し、遮光する栽培では遮光開始 14日前まで)	1回
オマイト乳剤	普	C	1500~ 2000倍	摘採 14日前まで	2回以内
アクテリック乳剤	普	B	1000倍	摘採 7日前まで	1回

印は弊社にて追記